

腹ペコだから出没する？

大量出没の際には、山の中の食物が不足し、栄養状態が低下したクマが出没するというシナリオが考えられます。そこで、大量出没の年に人里に出没したツキノワグマの体脂肪を調べたところ、栄養状態は必ずしも悪くなく、平常年よりも良好であったことがわかりました。栄養状態よりも「空腹感」が出没を促していることが推測されます。

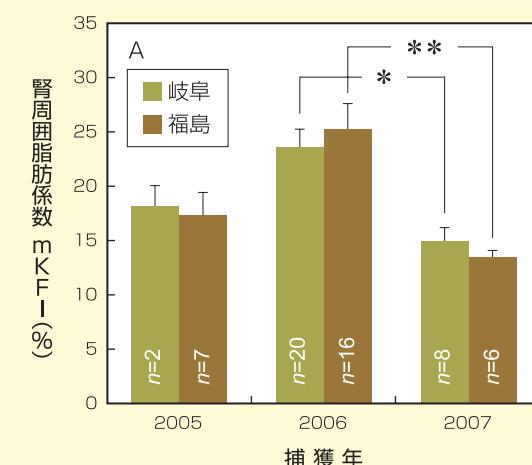
●出没グマの栄養状態

岐阜県、福島県で7月から9月にかけて有害捕獲されたツキノワグマの栄養状態を、体脂肪（腎臓の周りに付く脂肪、皮下脂肪、大腿骨骨髓内脂肪）の量で調べました。

その結果、体脂肪は、大量出没が起きた2006年が2007年より多かったことがわかりました。2005年はその中間の値でした。つまり、クマが人里に出没するのは必ずしも栄養状態が悪いからではないことがわかりました。

アメリカクロクマでは秋に食欲が増進することが知られています。ツキノワグマも同様で、それにも関わらず山の中に食物が無いので、人里にやってくるのだと考えられます。

2006年の7月から8月にかけて栄養状態がよかつたのは、前年にドングリ類が豊作だったので、春にその残りを利用できたことが理由だと推測しています。



ツキノワグマの腎臓は特殊で19個程度の腎葉に区切られ（分葉腎）、脂肪は腎葉の隙間にも蓄積されます。



【謝辞】研究材料の提供をいただいた岐阜県獣友会、福島県獣友会の皆様に深謝申し上げます。

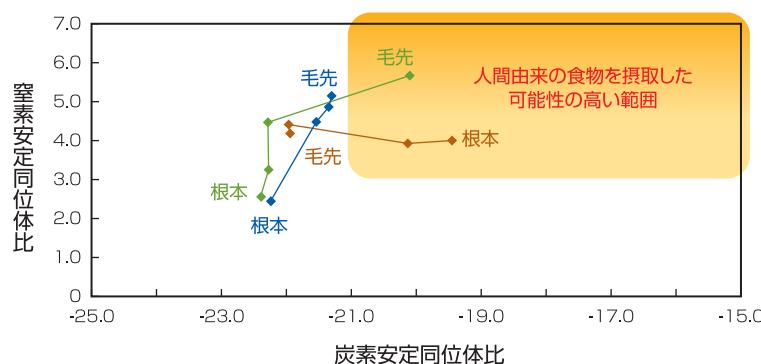
毛からわかった、 人里の食べ物がクマを呼び寄せる！

クマの体毛の安定同位体比分析により、出没個体の食性を調べた結果、大量出没年には、秋の山の実りとは無関係に出没していた個体もいることが明らかになりました。このような個体が増加すると出没や人身被害が常に発生するので、人里でクマを誘引している食べ物を管理することが重要です。

体毛は食性の変化を記録

クマの体毛は毎年生え替わります。体毛は6月頃に生え始め、その時に食べていたものの安定同位体比を反映しながら10月頃まで成長します。すなわち、秋に採取した体毛なら、毛先は春の食物の組成を、毛根側は秋の食物の組成を反映します。

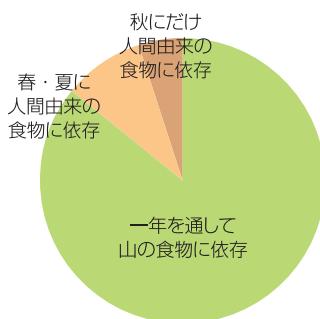
また、トウモロコシや海洋由来の成分を含む残飯などの人間由来の食物は炭素安定同位体比が極端に高いことがわかっています。



●個性ある食性

図は3頭のクマの体毛の部位による安定同位体比の変化を示しています。3頭の内、1頭は春から夏に、もう1頭は夏から秋にかけて人間由来の食物に依存していたと考えられます。

人間由来の食物を食べていた個体の割合



●人里の食物がクマを呼ぶ

調べた個体の9%は春、夏にすでに残飯など人里の食物に依存していましたことがわかりました。

つまり、クマの出没は、山の食物不足に加え、人里に残飯、家畜の飼料などクマの食物となりクマを呼び寄せているものがあったためと考えられます。出没の抑制には、これらの管理が不可欠です。

【謝辞】試料の収集には、広島県自然保護課、広島県環境保健センター、広島県獣友会のご協力を得ました。